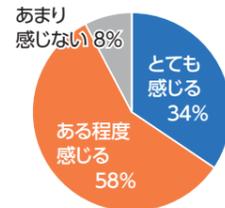


飲料水の備蓄に関するアンケート調査結果をお知らせします

※一部抜粋。アンケート結果は町ホームページでご覧いただけます

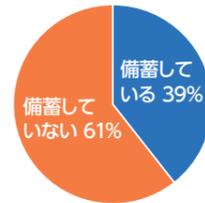
(令和3年7月実施、対象者：行政区長・区長代理・組長など 計398人、回収：363人、回収率：91%)

Q.地震や台風などの大規模な自然災害が発生する確率が高まっていると感じますか？



「とても感じる」「ある程度感じる」が合わせて90%以上であり、自然災害の発生を身近に感じていることがわかります。

Q.地震や台風などの大規模災害に備え、飲料水を備蓄していますか？



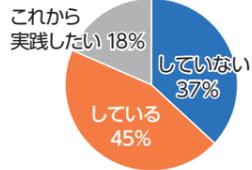
災害に対する危機感を持っているものの、約6割の人が飲料水を備蓄していないことがわかります。

Q.ローリングストック方式による備蓄の方法について(備蓄している人に伺いました)ご存じですか？

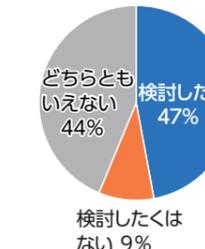


ローリングストック方式を知っている人は多いことがわかり、実践の方法を正しく理解してもらえば備蓄する人が増える見込みがあることがわかります。

実践していますか？



Q.この機会に購入または備蓄を検討したいと思いませんか？



購入または備蓄を検討したいという人が約半数いますので、備蓄するきっかけを提供するため、周知や啓発を図っていきます。

寄せられた疑問や意見にお答えします

Q.品質などは問題ないですか？

A.商品に使用する水は、稻含山の麓を流れる清流です。秋畑那須地区の水道水にもなっている水を採水し、熱殺菌等の各種処理や品質検査後、ペットボトルに詰めます。毎月定期的に水質検査を行っていますが、今回の製造時にも放射能や水質検査などを行いますので、ご安心ください。

Q.2ℓのペットボトルの方が安価で備蓄には良いのではないですか？

A.2ℓのペットボトルの方が割安で販売され備蓄に向いていますが、小分けにすることで、個別に配分でき衛生面においても良い面もあることから500mlの商品化を目指しました。災害時の知人宅や避難所などへの避難の際には500ml程度の方が持ち運びに便利ではないかと考えます。

企業版ふるさと納税

甘楽の天然水商品化プロジェクト

事業の趣旨に賛同し、右の企業が寄附されました。

(10月22日入金確認まで。公表希望の企業のみ掲載)

企業名	金額
株式会社田村組(富岡市)	公表希望なし
株式会社オウギ工設(前橋市)	公表希望なし

●●● 善意に深く感謝し、広く皆さんにお知らせします ●●●

「かんらの天水」を販売します

水道課業務係 ☎64-8316 ・ 上水道係 ☎64-8317

日本名水百選の「雄川堰」の源水である稻含山で育まれた天の恵みの水をボトルングした「かんらの天水」が今月完成します。

かんらの天水は、甘楽町と高崎商科大学・高崎商科大学短期大学部の共同開発商品で、多くの企業の皆さまの寄附によって商品化されたものです。

日々の飲料用や災害への備えとして、この機会にぜひお買い求めください。

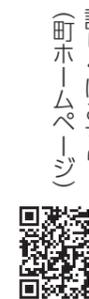


甘楽の天然水商品化プロジェクト 11月13日から販売します

甘楽の天然水商品化プロジェクト委員会が商品化を進めてきた「かんらの天水」が完成し、11月13日(土)から道の駅甘楽で販売します。13日は商品化記念特売日として、道の駅と小幡公園で1箱(500ml×24本) 税込み1,500円、14日(日)〜30日(火)は備蓄促進キャンペーンとして、1箱税込み1,680円で販売します。また、店内では13日は1本70円、14日〜30日は1本80円でお買い求めできます。なお、道の駅では箱単位での注文販売もお受けします。

販売収益はさまざまな分野に活用されます

売上金の一部は、災害に備えるための備蓄品の購入をはじめ、観光振興、水を大切にすることを醸成するための子どもたちへの教育、水源・森林保全、分別・リサイクルなど、さまざまな分野に活用されます。



詳しくはこちら
(町ホームページ)

防災対策・備蓄に！

復旧や救援物資の到達までには最低3日以上必要です

近年、多発する自然災害は、いつどこで発生してもおかしくない状況です。災害の規模にもよりますが、一般的にライフラインの復旧や救援物資の到達までに最低3日以上かかるといわれています。大規模な災害が発生した時には、まず食料や飲料水が必要となります。(水の備蓄の推奨量は人数×3ℓ×3日以上)

この機会に、ご家庭でできる防災対策や備蓄品を平常時から準備しておくことをお勧めします。

ローリングストック方式による備蓄をおすすめします

食料や飲料水を備蓄すると期限切れになって無駄にしてしまう可能性がありますが、消費しながら備蓄するローリングストック方式を推奨します。

※災害時に備え、備蓄した食品を定期的に消費し、食べた分だけ買い足していく

